

参考資料3

文化団体等ヒアリング調査結果(H31.2.6現在)

	分野	文化芸術に関連する活動	これまでの成果	課題	市民が文化芸術に親しむには	文化芸術の振興や地域活性化のアイデア
1	福祉	・高齢者の「居場所(いつでも集まれる場)」づくり 地区の集会所等で体操、カラオケ・編み物等好きな活動を自主的に実施している。	・家にいた高齢者が外出し、いろいろな人と集う場所が出来た。つながりが出来てきたことが大きい。	・活動を支援する得意ボランティア(無償)からの資金援助の依頼が増えている ・高齢者中心から、子育て中の母親など、誰でも集まれる場所にしたい。ちょっと出かける間に子供を見てもらえるような。 ・今いる方の体が弱くなった時に入れ代わりが上手くいくか。新しい人が入って来ることができるか。 ・お母さんの団体は子供の成長とともに人が入れ替わってしまう ・他団体とのつながりが無い	・関心を持っていない方に、地域の課題や必要性を知ってもらい、関心を持つ入口に立ってもらい、関心の無い人達に目に留めてもらうこと。広報は関心ある人しか見ない。 ・お互いに顔が見える関係を作ること 小学生と駄菓子屋のおじちゃん顔が見える関係が出来ている。	・市内の観光地をめぐるツアー(県外から来た人に「島田は立派な観光地だ」と言われる。見落としがちな地域の良さを知ることもいい。)
2	福祉	・こころのバリアフリーに関する冊子(避難行動要支援者の支援必要なこと、外出先やお店での障害者に必要な対応などをまとめた冊子)を作成した。 こころのバリアフリーに対応した店舗には認定ステッカーを配布している。障害者が店を利用しやすい。県外にも輪が広がっている。 ・「春の島田市商店街探検ツアー」に参加している。 ・子供たちを連れて社協の出前授業を実施している。	・子供たちも、障害のある人も皆同じであることがわかる。地域にこういいう子がいるんだということが根付いてきた。	・道路等のバリアフリー整備。車イスでは5ミリの段差もこわい。(でも目の見えない人には段差が必要だったりするので難しい面もある) ・島田駅中心のイベントに参加する時、駐車場代がかかって大変	・足を運んでみたら、両方の世代が楽しめるものがあるということ。 ・子供と高齢者は、体力の無いもの同士、ペースが似ている。「ゆっくりやろうよ」ということは共通する。	・特別支援学校の修学旅行の誘致(川根温泉ホテルはバリアフリーで、ミキサー食など対応可能、SLなど見るべき資源も多いし、人があたたかい。SLの音、煙、大井川の風、子供が五感で感じられる資源がたくさんあるのでびっぴりの場所) ・Wac藤枝は、特別支援学校卒業生のアートと地域社会、企業、ショップをつないでいる。障害者のアートは枠にとらわれない自由な作品である。
3	福祉	・消しゴム判子でハガキ等を作って遊ぶことが活動が中心。 ・子供をスタッフに預けて息抜きができる。	・自分達が子供に癒やされる。 ・ボランティアスタッフの居場所、社会との関わりの場となる。	・特になし。類似した活動では後継者問題などが話題となるが、自分がやりたいだけ活動して、できなくなればやめればよい。がむしゃらに続けたいわけではない。	・文化芸術の分野が多く、それぞれ人の興味関心は違う。いろいろなものに親しめるまとまった窓口があって、コーディネーターがいて、興味関心を手探りできる場があるとよい。ボランティアしたい人が来て、気軽に体験できる場があるとよい。はんこづくりは気軽に誰でも参加できる。スタンプを押すことでストレス解消になる。	・特になし
4	観光	・市内内外のイベントにおいて誘客活動、パンフレット作成、お祭りの案内所設置、情報提供、市外の団体との交流会 ・何課に相談していいのかわからない事など、いろいろな相談が寄せられる。 ・現在、観光地めぐりサイクルツーリズムのパンフレットを作成中で、資源をつなぐツールとなる。行きたいと思わせる写真を入れて、周辺の店も紹介している。地元にお金を落とす。	・マスコミの活用、ロケの誘致等によって、蓬莱橋など観光客が増えている。	・商店街等のやる気が大事。地域の人達が何をやりたいか。その立ち上げをしないと行政は動かない。最初は小さいかもしれないが少しずつ大きくなっていく。押し付けでない皆がやりたいものでないと継続しない。行政と民間が一体となって取り組む必要がある。 ・島田市民はイベントが大好きだが継続していかない。	・自分の町を知るといことを小さい頃から植え付けると、大人になって故郷をPRする材料になる。 ・川で分断されていたため地域の認識が強い。 ・子供が参加すれば大人も参加する。 ・高齢者や障害者が参加しやすいちょっとした工夫を行う。 ・面白いもの、楽しいものでなければ参加しない。 ・島田の逸品、島田遺産の活用	・各地で行っている祭りのツアーを組んでプレゼンする。田舎の素朴な祭りには、住民との交流がある。
5	文化芸術	・郷土の芸能、地域文化の保存継承 ・加盟団体の文化活動推進の支援 ・内外の文化団体との交流 ・新しい文化の研究など会員の研修 ・加盟団体及び会員相互の親睦	・書道を指導した児童が高校生になって受賞した。	・高齢化で市民文化祭で作品展示の負担が大きい。 ・おおりのホールを会議室を同時利用すると駐車場が不足するので、産官が連携して駐車場を活用する。 ・同世代同士の関わりが少ない。子供が少なく、活動の後継者の勧誘が難しい。 ・スポーツや国際交流など、横の組織との協体制づくり、組織づくりが大事である。 ・音楽団体のチャリムの活用	・自分達で垣根を作らずに人を受け入れる団体になる オープンカレッジ ・笹間神楽、川越太鼓、茶娘道中、外から人を入れる	・点在する資源をつなげる。 ・いろんな団体を入れた組織が必要 盛り上がりの意識を持ってもらう いろんなアクセスポイントができる
6	文化芸術(メディア芸術)	・舞台照明、音響技術、テレビ映画放送技術のボランティア活動 ・グランシップの子供向けイベント「グランシップオープンシアター」で舞台技術の裏方体験コーナーを担当	・子供・若者育成支援月間静岡県大会で表彰	・若者の文化離れを感じる。情報機器が身近にある。劇場などに足を運ぶことがない。電源をいれればすぐ楽に簡単にできる。一方で、簡単にできるから親しくなっているとも言える。 ・小学生にプログラミングが流行しているが、文化芸術でなくシステムエンジニアの授業になる。これからはこれと芸術文化系のアーティストとの二刀流にならないといけない。	・オリパラや万博で、大きく変わる可能性がある。機械と文化と一緒に時代が来る。人間と心が通じていない部分は希薄になることは危惧している。 ・活動が学内で完結してしまう。学生にポスターやチラシを作らせること、学生のレベルも上がり、文化に前向きになっていく。コンテストだけでなく、顧客と向き合うため人と関わり合うことになる。そうすると、目標ができる。学生に責任を持たせる。これが進路にもつながる。	・ICTが県下で1番進んでいる。幼稚園や小学生も中学生も入れてやれば面白いし、産業まつりで披露したり、体育館で産業フェアにして親子で楽しむ。 ・eスポーツはICTコンソーシアムの力がないとできない。おおりのシアターで全国とつなぐ。よそがやらないことを先行してやる。 ・大鉄の街歩きツールでキャラが出てくるようなもの。鉄道マニア、鉄道写真と文化につなげる。産業とつながらないと、文化課だけでは荷が重い。 ・高齢者も扱いやすいコンテンツができれば、多世代の交流に使える。若者に開発させたい。 ・若者が文化施設にいかない。もっと市民が文化で活躍できる場をつくる。楽器を演奏はできないが、コンサートのもぎりや、ドアの案内係などに携わる。仕事をリタイアした人がイベントにスタッフとして携わる。
7	文化芸術	・遊休農地の活用(野菜やそばの栽培、映画ロケ用の向日葵栽培等) ・交流センターで地域の特産品を販売 ・都市住民との交流事業(ピザ焼き、流しそうめん、ほうばもち、そば打ち、竹飯、川遊び等の体験メニュー) ・イベントの開催(ほたるの里まつり、ささま夏祭、ふるさとまつり) ・国際陶芸祭の開催 空き家の利用促進、アーティストインレジデンス等の定着へ	・住民の意識が少し変わってきた ・海外のアーティストが中・長期滞在し、英語教室、料理教室、陶芸教室等で住民と交流	・官と民とすみ分け、協力する体制を作る。島田が好きな人をサポートする体制を作る。横糸を通す。文化は、今までの行政の枠には馴染まない。 ・運営側の人材確保。イベントや体験に参加してもらうことで確保していきたい。 ・農業に結びついた行事の文化がこのままではなくなってしまう。柿の木責め、沢めし等	・参加、参画できる窓口を広くする。 ・体験やイベントで、自然に感じる必要がある。	・DMOと協力して「ワビサビレッジ」の取り組みを始めている。華美なものを創出するのではなく、季節に寄り添った笹間の素朴な日常の暮らしの中に「わびさび」の心を見出す。そこにアートの視点を加える。

文化団体等ヒアリング調査結果(H31.2.6現在)

分野	文化芸術に関連する活動	これまでの成果	課題	市民が文化芸術に親しむには	文化芸術の振興や地域活性化のアイデア	
8	文化芸術	<ul style="list-style-type: none"> ・正月に子ども達が太鼓の奪い合い、打ち合いをやったのが発祥。市指定無形文化財 ・太鼓の演奏(祭り、結婚式、福祉施設等から依頼がある)。特に福祉施設で子どもたちの演奏は喜んでいただける。 ・県大会、全国大会、シニア大会への出場 ・チャレンジチームは障害者のチーム、20年連続全国大会に出場して表彰された。健康者と一緒に演奏はしない。曲は短くしている(長くても1曲2分半) ・障害者のチャリティコンサート ・文化交流で海外に行くこともある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達の気持ちに自信がつく。一緒に成長していく。長く続けてもらいたいと思って教えている。障害者の子どもで1人、年間5回ぐらい太鼓を借りて、お宮で演奏する子どもがいる。すぐ太鼓を覚えて、自分で曲も作る。 ・マラソンの応援で帯通りで演奏するとハイタッチするランナーもいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・開発に伴い、練習道場の移転をしなければならないが、音が大きいので、移転場所を探している。 ・練習場所が狭いため、親と子で同時に練習できるようにしたい。 ・レギュラーメンバーが少ない。日曜日に仕事がある人がいる。お茶の時期は出れない人もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・祭りに対してあまり乗り気がない。コンサートにあまり行かない。茶まつりは多いが、私達のコンサートにはあまり来てくれない。夢づくり会館が満席になったことがない。情報発信の仕方が悪いのかもしれない。 ・見る側でなく参加する側になる。箱で静かに見るより、野外の参加型のイベントの方が集客がある。産業祭では外の露店の方が人が多い。 ・子どもが出れば、親が見に来る。 ・昔話が埋もれている資源としてあるので、語り部を育てる。また旧家を保存する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ここ数年は、よさこいや阿波踊りなどとコラボしている。そういうことは増えている。 ・牧之原公園で、1～2回、昔と同じように正月に太鼓の奪い合いをやったが、市長が変わってやらなくなった。続けていけば良かったと思うが、集まる場所であれば出来ない。 ・イベントで、参加者が太鼓を叩いてみるようなことをやるが、日本人は恥ずかしがって出てこない。積極性が少ない。外国人は踊りだす。金谷高校や島田商業高校の生徒にも教えているが、積極性がない。小学校にも行っていたが、校長先生が変わると方針が変わるので、今は行ってない。
9	文化芸術	<ul style="list-style-type: none"> ・フォークソングのバンド活動 ・夢づくりライブ、夕涼みコンサート、デイサービス等の依頼演奏。お年寄りには涙を流して喜んでくれる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・出会いができる。仲間ができる。絆が深まる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・駅前スペース等を使ったライブ活動。もっとふれあえる場を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人と人の接点をどう作るか。音楽は人を引きつける力がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・お互いの輪が呼び合う、互いが引っかかるきっかけが必要である。 ・教育と関連付けるなら、行政が橋渡ししてくれれば幼稚園や保育園、小学校、どこでも演奏することはできる。
10	文化芸術	<ul style="list-style-type: none"> ・夏樹文庫の運営管理(文庫にはたくさんの蔵書があり、夏樹静子さんの直筆原稿や万年筆、愛用の基石が展示されている) ・夏樹静子さん存命時には、夏樹静子感想文コンクールが開かれ、授賞者には直筆の色紙が送られ、また感想文の添削指導も受けることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏樹静子さんとの交流ができた。今も夫や息子さんとの交流がある。 ・地域交流センターでのイベント時には散策がてら文庫を訪れる人がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏樹静子さんが亡くなったためどう活動していくか。 ・活動に関わる人の高齢化、活動資金、文庫を見に来てくれる人を増やすこと(しかし特段の宣伝はしていない) 	<ul style="list-style-type: none"> ・市街地の発展ばかりでなく山の方にも目を向けてほしい。それぞれの良さ、個性がある。まちは動、山は静で、市としてバランスが取れなければ。 ・地区に行ってその特徴を見たり聞いたり話をしたりすることが一番いい。そこを知らなければ何にもならない。情報源となるところをしっかりとしてほしい。山村交流センターは笹間の情報源である。ここに来れば情報が得られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昔は無尽講(今で言う共済)、茅場があり、仲間が多く、互いに助け合い協力し合って暮らしていた。そのせいか面倒見がよく、最近若い人が空き家に住むようになり、地元の人ともうまくやっている。
11	教育	<ul style="list-style-type: none"> ・各講座は公民館等で行っている。 ・好きな事は長くつづく、若者も年配者も好きな事だから話はずむ。講座は新しくできるものもあれば消えるものもあり、束縛しない。 ・女性が多いが、登山やカヌー、パソコン等は男性の多い。 ・子供が参加するものもある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生きがいが出てくる。そういう人は若い。仲間づくりは長生きの秘訣。 ・これをやってみようという事は達成感がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多岐に渡るため、人と人のつながりが希薄になっている。でも近所づきあいがないと孤立してしまう。金谷宿大学の活動から少しずつ広がっていくとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・難しく教えない。自分がやりたいことをやる。そのために市が情報提供をする。 ・公民館が、絵を展示しやすい場所になっていない。(天井が低い、空調、照明、セキュリティ) ・諏訪原城、河原町、アビールするなら整備する。 ・牧之原公園は景色がきれいだが駐車場がない。 ・歴史的ポイントは、その分野の人に担当してもらおう。素人がやるため。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資源がバラバラ。まとまるといい。 ・連台越しも、もっと大体的にやる。金谷・島田～石畳～日坂の流れがわかるように。
12	教育	<ul style="list-style-type: none"> ・社会教育活動 ・月1回のペースで講座を開催し、さまざまな分野の学習ができるようにしている。 ・50代～70代が多い。 ・女性の参加が多い。 ・年2回、街角ウォッチング(移動学習)を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館に来る人に余暇を提供している。 ・人のつながりができる。刺激を受けることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新しく入ってくる人が少ない。平日昼の開催であるため。 ・学習の内容をもっと充実させたい。座学より体験が好まれる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館まつりで、障害者の就労施設の出店を始めた。障害者も参加したいと思うようにしたい。 ・「金谷の良いところ再発見」で地域資源を出して、周遊コースを作成したため、ホームページに公表してイベントを実施したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の少ないコミュニティバスも活用した地域資源をめぐる周遊コースを作った。新茶の時期に周るイベントがしたい。
13	スポーツ	<ul style="list-style-type: none"> ・市民スポーツ祭(5種目:自治会対抗)と駅伝競争大会を主催している。 ・5種目はゲートボール・ソフトボール・ハレーボール・インディアカ・グラントゴルフ)。 ・スポーツ教室 ・スポーツ少年団の交流大会 スポーツ少年団は青少年育成の意味もある 	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会単位で開催しているため、新しく興味を持ってもらうこと、現在活動している人が続けていくこと、そして地域のコミュニケーション、つながりができる。親睦を深めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・参加チーム数の減少 ・任意団体であるため自主財源が確保できない。NPO化を検討している。 ・スポーツ少年団も参加する子供が少なくなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民スポーツ祭は自治会対抗であるため、地域のつながりをつくっている。 ・島田市に転入した人から問合せがある。ホームページで団体が検索できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・川根温泉で観光業者にPRしてもらおう。 ・各地から大会に参加した人に、パンフにお茶バックを付けてPRした。 ・しまだマラソンでは宿泊者が市内の指定の飲み屋で焼酎1杯無料等のサービスをしている。 ・小さい資源を結んで滞在時間を長くする工夫が必要 ・修学旅行生が泊まった旅館にお茶バックを配ってPRしている。
14	産業	<ul style="list-style-type: none"> ・映画・ドラマ等のロケ地誘致等 ・さくらめし焙炉あげ ご当地グルメ ・産業まつり 	<ul style="list-style-type: none"> ・フィルムコミュニケーションでロケ地データを作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・人材の減少 ・活動資金 	<ul style="list-style-type: none"> ・産業まつり 市民が来るイベント ・マチナカシネマ(屋外シアター)NPOが斬新なアイデアを出している 	<ul style="list-style-type: none"> ・保全より活用すること ・ロケ地めぐりバスツアーを考えたが距離が足りなかった さわやかウォーキングでロケ地を見る企画は好評だった
15	産業	<ul style="list-style-type: none"> ・島田市の逸品 ・文化産業祭 ・初倉まつり ・ふるさとまつり 	<ul style="list-style-type: none"> ・オシマネーの活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・人手不足 ・事業継承が上手くいかない→大型店に客を取られる→買い物難民の発生 ・空港が出来てもメリットはない ・建設や製造業の需要がある ・お茶の勝ち組はいる 	<ul style="list-style-type: none"> ・子育てしやすい環境、島田市から出て気づく住みよさと感じる 	<ul style="list-style-type: none"> ・合併により横のつながりが出来た 異業種交流会 情報発信が課題
16	まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・元気市 部活動の発表、ダンス団体の発表の場。帯通りの歩道を活用している。施設管理が主な活動となってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・土日祝日は地域のイベントでおおりのいはっぱいの状況。夢づくり会館はアクセス面で課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・おおりのははら舎の一部になっていて管理が難しい面がある。 ・元気市は、商店街も若年人には出てくれない。また冬は客が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多世代の交流。けん玉を教える。子育て講演会。 ・市民がボランティアで運営に携わる取組ができるとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・旧島田市は寄席などの来場が多く、伝統文化への関心が高く感じる。 ・太鼓の団体が多い。 ・まちなかシネマを気の合う人達がやっている。 ・まちづくり、文化、観光等で行政が連携 ・中央公園などオープンスペースを活用する
17	まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の好きと地域のスキマを埋める地域のコーディネート役 ・大井川鉄道の無人駅のアート、子どもが職業を体験す 	<ul style="list-style-type: none"> ・アーティストが地域をアートとして表現してくれることで、とても感動してくれる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・無人駅アートは収益を産まないが、住んでいる人とアーティストの交流が生まれている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な人達を受け入れてくれる土壌づくりとしてのアートを考えている。生活の中に文化芸術を落とし込んでいくという発想。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大井川と住んでいる人がどのように関わっているかを捉える。

文化団体等ヒアリング調査結果(H31.2.6現在)

	分野	文化芸術に関連する活動	これまでの成果	課題	市民が文化芸術に親しむには	文化芸術の振興や地域活性化のアイデア
18	まちづくり	・市内全域商店街化を目的としたイベントを開催。それに伴い加盟店同士の連携や情報交換、市内の商業活性化のための活動を行っている。 ・島田市出身の落語家が店内で寄席を行う「おみせらくご」を開催した。	・加盟店の知名度の向上。イベント日の平均来客数、約80名。県庁商業まちづくり室からの事業委託。テレビ新聞等、各種メディアへの露出。商店主同士の意識の向上、連携の強化	・定期的な意見交換会の開催による、各店の参加意欲の向上	・この事に真剣に取り組み熱意のある人材の確保。その人材が無理なく続けられる金銭や労力へのバックアップやフォロー。	・「何をやるのか」よりも「誰がやるのか」が大事だと思う。
19	まちづくり	・地域活性化のための音楽イベント「キャンドルナイト」。中央公園や石畳茶屋の裏庭などで、音楽と地元の人達の出店、和服で来た人にプレゼント。年1、2回開催。 ・マルシェも年に1、2回開催。市内ではなく、あえて市外や県外から出店してもらい、島田を知ってもらい、こちらを参考にする。	・日曜日に商店街が閉まってしまうが、その時だけはイベントに人が来てくれる。 アーティストに島田を知ってもらえる。こんなアーティストがいたのかと知ることができる。 ・若者の出会いの場にもなっている。	・キャンドルナイトは火を使うため、やりたくても断られることがある。行政の課によっても対応が異なるため、もっとサポートがあるとよい。	・若者が求めているものが何かを把握すること。いろいろな状況の人に意見を聞くこと。若い世代と大人をつなぐ窓口の設置。	・補助金のことを知らない人が多いため情報があるとよい。また補助金の条件が緩和されるとよい。市役所が相談しやすい場になってほしい。
20	まちづくり	・遊休不動産の活用や空きスペースの運営、店舗プロデュースと空間デザイン ・これからは単発で終わってしまうイベントより、この場所ですることができる日常的な活動を新しく始めたい。	・住民、近隣の店舗、行政からの信頼を得ることができた。 ・賑わいを作るだけでなく、地域の課題を解決するにはイベントだけではだめ。	・デザイナーやビジネスオーナーなどコンテンツを担う人材を同時に育てる。 ・無人駅の芸術祭で出展する木村氏は、パブリックアーティストで、コミュニケーションをアートする、物を作るだけでなく関係性を作るアート。町のストーリーをアートする。	・演劇でコミュニケーションを取るなど、文化芸術を教育に落とし込んでいく。参加するアプローチは、県のSPACからのアプローチがあってもいい。	・沼津市のように、行政との協力体制ができること。 ・法多山のお化け屋敷のお化けは、SPACの役者さんで、新しい発想で力を入れている。 ・無人駅の芸術祭のパフレットで、紹介されているお店には、長く住んでいる私も知らない店があった。意外と知らない。島田の良さに気づく、ここで暮らす人に焦点を当てた、ここで暮らす楽しみを作る雑誌を作りたい。
21	まちづくり	・映画鑑賞会(年1回)35ミリをかりて上映する。 ・夏に自由演奏会。5曲くらい全員で演奏。北海道や福岡からも毎年来ています。 ・コンサート、地元文化団体の発表会(日舞など) ・子どもまつり(ダンボール迷路、フロアいっばいの積み木、射的、金魚つり、動物とふれあい)	・参加している方は満足してくれている。参加者同士のふれあいになっている。	・メンバーが固定化しているので新しく入りにくい、川根ラプソファクトリー(小学校の子供のお父さん達)が入ってくれるようになり、世代交代して中心的になってくれると思う。	・今までは来て見るだけ。体験できる文化ができれば、NPOがこれをプロデュースできれば。 ・資源がもつ魅力は、島田市以外の人に見てもらいたい。いいところ再発見。	・空き家バンク事業を委託しているが、いろいろ難しい。かりてもらえない現状がある。売りこめば来てくれるかも。売りこみは不得手な人が多い。
22	まちづくり	・川越街道にきたお客さんに甘酒、江戸コーヒー、作品とまではいかないちょっとした小物作品等を作家が自由に持ち込んで販売 ・イベントの実施(春は大正や昭和初期のお雛様の展示、桜まつりでの焼きそば販売、五月飾りの展示、朝顔公園での子供会夏祭り、七夕まつり)	・お客様の喜ぶ笑顔 ・いろいろな所から来る人の話は勉強になる	・地元の人が街道の価値を知らない。知名度が上がれば、プライドが生まれれば、歴史も学び子どもにも伝えたい。 ・文化財であるため、イベント等も制約があってやりたいことができない。 ・空港があるが、島田市に観光で泊まる人がいない。通過してしまう。受け入れの体制も出来ていない。地元の人も観光地に行けないので、点と線をつなぐことが出来たらよい。	・藤枝はおんぼくができるくらいのもままりがあるが、島田はみんな自由にやりすぎてまともでない、島田おんぼくはあり得ない。まともでないが仲が良い。材料となる資源はたくさんあるので、それを丁寧に紡ぐセンスのある人がいれば、自分からは行かない「ようこそ文化」で、来たらずごくもてなす。職人集団なので、営業が下手。営業部長が必要。	・古いものだけでなく、新しいものだけでなく、古いものを今のフィルターを通して再解釈して作り直したらどうか。自分たちが面白く、楽しくないと。疲れた顔をしてやるものではない。
23	まちづくり	・駄菓子屋がほしいと思っていたが、自治会の協力があって、公民館で駄菓子屋を始めた(週2日)。子供はお年寄りの指導で卓球をしたり宿題をしたり工作したりしている。年4回イベントも開催している。夏休みに出張開催もしている。	・駄菓子屋のお年寄りと子供が顔見知りになり、子供の見守りになる。	・スタッフは少ないが、増やしすぎても主旨が変わってしまうのでこれでいい。 ・他地域でやりたい人が見学に来るが、自治会の協力を得るのは難しいようだ。	・自分のまちがどんなに好きかということ。何を通じて好きと感じているかは人それぞれ。	・好きなものは発信するために何かしたいと思うはず。 ・お母さんはキーワード。地産地消など生活文化に対する関心が高い。
24	環境	・放棄地の再生(梅林、竹林、市民農園) ・マイバックづくり ・小水力発電 ・地産地消運動	・地域の人のつながりと環境保全	・環境だと堅苦しいので、遊びを兼ねたイベントを開催している。できるだけ楽しくできるようにしている。	・地域資源をまとめたパンフレット等があるが、中途半端になっている。これをつなげるといいと思う。	・精神的な大きな柱が足りない。おもてなしの気持ち。 ・資源もバラバラになっている。 ・市民に任せてみる。任されたら嬉しいし、達成感がある。
25	地域安全	・伝統的に継承しているものは特になし。	・市民の安全確保 ・消防団でしか出会えない仲間	・人材が不足している。	・小さい頃から文化芸術に親しみ素養を高める。	・川留め文化
26	その他(古民家活用)	・古民家は、住んでいた人の思いがあるため、その人とのつながりを大事にしないと流通しにくい。 ・田の字型の間取りが多い。	・レビューでいい評価をもらおうと嬉しい。	・外国人よりも日本人の方がマナーが悪い場合もある。	・東京、名古屋、大阪の客が意外に多い。集まり安い中間地点に位置する。 ・地区毎に資源をみつける担当がいて団子状につながるとよい。 ・川留めで待つ人を受け入れてきた。外からの人を受け入れることができる。 ・外国人はワインの産地と背景を楽しむ。古民家のストーリーを学生が動画にして空き家バンクで紹介する。お茶も大井川とからめたストーリーを出す。 ・文化芸術は実は自分のまわりがたくさんあることを知らない人が多い。フランスみたいに、地域の人が地域のよいものを紹介するしくみがあるとよい。	・公共とつながっていないイベントは、チラシを置かせてもらえない。市が応援しているという表明をしてもらってもちがう。浜松のように島田市もシェアリングの考えを導入してもらえれば。海外のバックパッカーが来た時に、労働するから泊めるとか使っていない車を提供するとか、眠っている資源を活用することで活気が出ると思う。
27	その他(ラジオ放送)	・島田市及び近隣市町の暮らし情報、市内外のグループの活動紹介、地域産業の販売促進を手伝う。	・「まちの元気人」コーナーで800名以上紹介、媒体としての成果が出ている。	・売上げの向上	・文化芸術に対する行政の理解	・流行は作っている人がいるので、一巡してくる。アンテナを高くして、お茶、着物等を活かす。 ・バラは生産量も多く活用しやすいのでもっとアピールしてはどうか。 ・ノスタルジックは蓬萊橋などの観光 ・茶畑、大井川、富士山が見える風景に、東京から来た人がとても感動していた。私達には見慣れた風景だが。